

防災塾・だるま 5周年記念事業（第68回「防災まちづくり談義の会」）：

基調講演とワークショップ

◆2010年12月5日（日） 神奈川大学横浜キャンパス

◆主催：土木学会 地震工学委員会（市民の視点で地震防災を考える小委員会）

共済：神奈川大学

後援：横浜市消防局 横浜市神奈川区 防災塾・だるま

第一部 基調講演 13:00～14:30（10号館410号室）

テーマ： 「横浜市の震災体験に学ぶ」

講師： 武村雅之氏（小堀鐸二研究所副所長）

開会あいさつ：

田中努氏（土木学会・小委員会委員長）

百数十名の市民・行政・学会
の皆さんが熱心に参加した。



「横浜市の震災体験に学ぶ」

横浜市の地震対策を考える上で、
関東大震災は貴重な教訓を与えてくれる。



講師： 武村雅之氏

1. 関東大震災は、本震（9月1日11:58）に加えてM7以上の大規模余震群を加えると計6回発生したことが最近解った。
2. 死者10万5千人の内9万人以上が火災が原因であり、その根本は住家全潰にある。（住家全潰死者11,000人）
3. 最大の被災場所は、被服廠跡4万4千人。避難者は、火災旋風が襲う前は、危険をほとんど意識していなかった。
4. 横浜市の死者は2万6千人と、当時の人口の6%を超えており、この点で東京より被害が大きい。
5. 東京・横浜いずれも地盤の弱い（過去の河川流域・埋立地等）地域に被害が大きい。
6. 避難者の火災による生死を別けた一因は、荷物（発火の元）の有無であった。
7. 地域の歴史には、様々な教訓が時に埋もれている。（例：フェリス女学院カイパー先生の話、富士紡績保土ヶ谷工場の悲劇、震災生き残りの証言、等々）
8. 耐震基準が、歴史的に変遷する中で強化されているので、犠牲者は確実に減少している。
9. 自然はすばらしい恵みを与えてくれるが、時には大災害をもたらす。
10. 災害を減らすには、自然のメッセージを学び、人と人、地域のつながりを大切にし、生活を豊かにする中に、地域防災・減災への道があるのではないか。

人間の耐震化！

横浜市に大地震が起きた場合に市民が直面するであろう困難と対策から5つのテーマを選び、それぞれのテーマに市民・行政・学会の参加者が一堂に会して論議するという画期的な試みで、活発な意見交換の後、各グループが発表を行い、上原・横浜市危機監理監(だるま顧問)と荏本・神奈川大学教授(だるま塾長)の講評で締めくくった。

田中氏(土木学会)開会あいさつ



講評: 上原・横浜市危機監理監



講評: 荏本・神奈川大学教授



荒巻・横浜市神奈川消防署長

テーマ1: 上下水道の被害と生活に及ぼす影響、我々が準備しておくべきこと(進行: 伊村先生・武蔵野大学)

だるま会員: 中村(俊)さん、伊東さん、
中島さん、池田さん



発表: 中村(俊)さん



発表: 山口(昭)さん

テーマ2: 生活道路と鉄道の被害と生活に及ぼす影響、我々が準備しておくべきこと(進行: 紙田先生・東京大学)

だるま会員: 山口(昭)さん、千野さん、菊地さん



発表: 黒須さん

テーマ3: 斜面災害の危険性と対策の課題(進行: 荏本先生・神奈川大学)

だるま会員: 黒須さん、佐藤さん、森さん



発表: 市古先生、大堀さん

テーマ4: 避難生活期の時限的生活インフラの課題(進行: 市古先生・首都大学)

だるま会員: 大堀さん、小原さん、長沼さん、岡部さん、山口(章)さん

テーマ5: 横浜市民に対する防災情報の提供(進行: 中川先生・時事通信)

だるま会員: 中村(茂)さん、上野さん、
玉井さん、片山さん



発表: 中川先生



発表: 上野さん

事前登録した以外にも下記のだるま会員が各テーマに分散して参加した。(順不同):

植山さん、渡辺(善)さん、田中(伸)さん、添田さん、内田さん、田中(喜)さん、成松さん、ほか。

ワークショップの報告書は土木学会が作成し、参加者に配布される予定です。

(記: 池田・成松)

ワークショップ終了後、懇親会で更に交流を深めた。お疲れさまでした!